****
隔週刊「７７歳が送る農業文化マガジン『電子耕』　第７９号
−高齢者と若者の交流・健康・農業・食・図書・人物情報−

２００２．３．２１（木）発行 西東京市・ひばりが丘　原田　勉
**********発行部数 1779 部**********
＜キーワード＞
高齢者と若者の＜読者の声＞のメール交換、健康・病気・食べ物・農林園芸を中心として庶民の歴史も残す。農文協図書館、山崎農業研究所、文化座などをめぐる雑学情報を提供し、お互いに交流しましょう。

目　次----------
＜読者の声＞　井村さん、矢崎さん、青木さん、山崎さん
＜舌耕のネタ＞「食品の偽装表示と組織幹部のモラル」
＜健康情報＞ホームドクターと専門病院をどう選ぶか（私の場合）
＜菜園だより＞カラシナのツボミ菜を食べ、カキナの収穫をする
＜日本たまご事情＞3/12「トレーサビリティ（生産履歴を追跡する仕組み）２」
＜農業・図書情報＞農文協図書館・野口弥吉博士の訃報
＜農業・図書情報＞青木雅子著「麦さん」けやき書房刊　定価１４００円
＜想い出の人々＞３、古島敏雄先生の最期は無念だった
＜私の近況報告＞３月８ー３月２０日櫻の花が咲き始める季節になった

＜読者の声＞ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけでは無く、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。----------
＜読者の声＞
■3/11 井村さん、入場無料券希望
Book フェアの入場無料券を希望します.

■3/12 矢崎さん、３月号有り難う
この度は、思いがけず「現代農業」をいただき有難うございました。
久しぶりに読ませていただきました。
東京都では置いている本屋も少なくて読もうと思ってもなかなか買えなかったりします。
かといって毎号買うのもちょっとという感じです。

私は、有機農業研究会の代表をされていた沢登氏のぶどう園を手伝っていました。
昨年暮れに亡くなってしまいました。氏はまもなく九十になろうという歳でしたがめがねをかけずに新聞を読むという怪物でした。健康にも人一倍気を使っておられ、百までは軽いと思っていたのでびっくりしました。
近藤氏の健康法を教えて上げられれば良かったと思います。

ではくれぐれもお元気で。

●3/13 返信：矢崎さん
矢崎さん。メール有難うございました。沢登さんのご逝去お悔やみ申し上げます。農文協でもいろいろお世話になりました。今後もどうぞよろしくお願いします。

■3/12 青木さん、(venet)
前略
電子耕に本を紹介いただきありがとうございました。
さっそく注文をいただきました。
また、農業書センターにも平積みにしてありました。
これからもお世話になります。

■3/14 山崎さん、「現代農業３月号」の感想
社団法人　農山漁村文化協会　御中

先日は、御協会の「現代農業３月号」を頂きまして心より感謝申し上げます。
さて、感想なのですが大変わかりやすく読みやすい雑誌なので楽しく読まさせて頂きました。

内容も全体的に農業の生産技術（水稲・水田、野菜・花、果樹）から、経営・経済に至るまで幅広い範囲を網羅しており大満足です。
現在、広島県立大学で生物資源管理学を学んでおり、４月からは、商工会職員として地域の地場産業の振興に微力ながらも少しでも貢献できたら幸いだと思います。

そんな折、「主張」の「地域内農工商連携と経済循環でグローバル経済に対抗する」を読まさせて頂き、大変共感を覚えました。何分、貧乏学生なもので、

「地域資源活用食品加工総覧」を購入することは、不可能ですが機会があれば、図書館等で読まさせて頂けたら幸いかと存じます。

　今後とも、農業の素晴らしさ、地産地消、里山から、農業の生産技術に至るまでより良い情報の提供を心よりお願い申し上げます。　最後になりましたが、御協会の今後の益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。

●3/14 返信：山崎さん
山崎さん。
大変くわしい感想メール有難うございました。これからもきっとお役にたちますから読者になってください。お願いします。

＜舌耕のネタ＞「食品の偽装表示と組織幹部のモラル」

今から３８年前、私は「玉川農協の実践」という記録映画の制作に参加した。最近、偽装豚肉で問題になった茨城県玉川農協である。私は始め信じられなかった。１９６４年当時は、組合長山口一門さんが映画の原作になった『玉川農協の実践』を農文協から出版して全国に先駆けて、小さな農協でもここまでできるという実績をあげ、農協活動の模範となった所である。

　それは、わずか２５０人の組合員が、ひとりひとり水田プラスアルファという農業経営をめざして構造改革をしていた。水田の稲作だけでは農業が立ち行かないから稲作を基礎とし、プラス養豚や養鶏・酪農、園芸を加えて生産額を上げようという経営だった。その資金は農協から担保なしで貸し出す。農協の貯金は農民のものだ。それを運用するのは農民だ。農民のため農民による自主的農協の基本精神でやって行くという方式で職員と農民が協力して成功した。

　当時から養豚農家は成功し、酪農でも野菜でも、地域だけで消費できないくらいに生産量があがった。そのころ（１９７３年）から東都生協と提携し、消費者の自主的な共同購入運動を玉川農協とおこなってきた。今回問題になった豚肉の「バークランド」は生協と農協で共同開発したブランド商品。指定の生産者が指定の飼料で飼育している。昨年は３８７トンを取引した。

　食肉の場合は、ロースやヒレなど部位による需要のアンバランスが多く、欠品を避けようとすると他産地に頼らざるを得ない。そこで農協の幹部がカナダ

からの輸入豚肉を混入し、偽装表示をしたという。ブランドを守るため、基本精神を忘れたという不信を招いたのである。

東都生協（東京都世田谷区）は、かつて大冷害で米不足になったとき、他生協は外米を混ぜて量確保に走ったときも、国産米だけを均等に分配する良心的な方針をとった実績がある。今回も「農協側で出荷が間に合わないときはキャンペーン購入を控えるなど、需給調製には神経を使い、自負していたのに」と残念がっている。いままで東都生協と玉川農協は消費者が予算を出して、生産現場での交流の場をつくるとか、農家が有機農産物を作る努力を応援してきた。それだけに裏切られた思いであろう。

しかし、今回、東都生協としては玉川農協との連携を切り捨てるべきではないと思う。関係者への厳しい態度は前提であるが、欠品への対応や家畜の糞尿処理などを見過ごしてきたこと。よりよい食料の確保のルールつくりをゼロから再建する努力をするべきではないか。

先の雪印食品や全農の場合も組織が大きくなると、ブランドにあぐらをかき、或いはブランドを守るために幹部は利益と効率を優先し、小さな産地や生産者を切り捨て、消費者のニーズに応えるという旗印のもと、画一的規格や品揃いを電話一本で処理することになる。場合によっては「国際産直」という造語も現れて、生協も荷担する傾向もある。そうなったら日本農業が衰退・消滅するということも念頭からなくなる。

これでは日本人の食料の安全・安心は確保されなくなる。
特に、農協と生協の幹部に申し上げたい。規模を大きくすると、危険も増加するということを。人の命の食をあずかるという使命を忘れてはならない。
幹部は利益と効率を優先するため、その地位につくと、良心的部下の声まで聞こえず、怒鳴ったり威張ったりしてでも不正を通そうとする。モラルの喪失である。

生産者も消費者も問題を共有して、真の信頼関係をきずいて欲しい。組合員のための組合員による組織は、お互いの協力なしには確立できない。いつも何も行動しないで自分だけ安心して居られる世の中なんてものはないのだ。
永遠の真理・道理（モラル）はそこにある。

＜参考リンク＞

東都生協
http://www.tohto-coop.or.jp/
プレスリリース
http://www.tohto-coop.or.jp/news/press/frame_press.html

＜健康情報＞ホームドクターと専門病院をどう選ぶか（私の場合）

私は、若いときからいろいろな病気を経験している。３３歳から尿路結石で３回入院摘出手術。４０歳から十二指腸潰瘍で４回入院。４２歳の腰椎２カ所椎間板ヘルニアで入院手術・ギブスベット半年という経験が最も辛かった。その後遺症でＣ型肝炎。７１歳から動脈硬化による眼底出血。高血圧による脳出血。そして現在多発性骨髄腫と三つの病気と付き合っている。それでも７７歳で、なお生きている。いや、生かされていると感謝している。

しかし、お世話になった医師も大方は定年・老齢を迎えられた。最近、近所のホームドクターの医師も診療所を引退された。私もいつどこで倒れるかわからない。現在お世話になっている専門病院は３カ所とも都内にあるので、緊急の場合には間に合わないことも予想される。そこで、近所にホームドクターを探すことにした。

ホームドクターは定期的に検診して貰い、場合によっては往診して貰えるのが望ましい。それに何かのときに専門病院を紹介して下さる方をお願いしたいと思う。また、急死した場合に死亡診断書を書いてもらえる関係をつくっておきたい。できれば私より若い人が良いのではないか。と考えている。

専門病院は、Ｃ型肝炎は肝臓病に詳しい名医にかかっているし、「東京肝臓友の会」に加入して毎月会報で情報を得ている。高血圧と脳出血予防には脳神経外科病院で毎月２回の定期診療を受けている。多発性骨髄腫は血液内科の専門医に隔月の検査・診療を受け、「日本骨髄腫患者の会」のメーリングリストに加入して、毎日メールで情報をえている。現在は完治困難な病気であるが、新しい薬や治療法の実現に希望をつないでいる。

できる限りの情報を得て、自分で納得できる治療と対策を選びたいと思う。
老化と死は必ずやってくる避けられない事実である。その事実を直視して、これからも自分らしい生き方を見出していきたいと願っている。

＜菜園だより＞カラシナのツボミ菜を食べ、カキナの収穫をする

桜の開花も始まった。ぽかぽか陽気で菜園のカラシナも一斉にツボミ菜が目立つようになった。１日おきにツボミ菜を収穫しても４人家族で食べきれない。初めはお浸しやごまよごしにしていたが、やや固い。少し苦みがあるが油炒めにしたら茎もやわらかになって、年寄りにも食べられるようになった。
　カキナも伸びるし、わずか４坪の菜園がこんなに豊かな新鮮野菜を毎日恵んでくれるとは思わなかった。

　ベランダで菜園を観察しながら、朝の新鮮な空気を吸って深呼吸。これも野菜が炭酸ガスを吸収して酸素を供給してくれていると思うと自然に育っているように見えているが、これが農業の基本だと思う。太陽と土と水の天地自然の恵みに感謝して、毎朝おてんとうさまに柏手をうって拝んでいる。

　先住者が植えていた球根のラッパ水仙・ヒヤシンス・アネモネの花が開いた。
　３月１７日、カラシナが大きくなりすぎたので、ツボミの部分を収穫した後は、根元から切り倒した。２坪くらいの跡地にコマツナを蒔く。少しづつ収穫できるように、あとの１坪には４月１日に蒔く予定である。

　３月２１日は私の７７歳の誕生日で、来週には私が植えたチューリップも花が開いてお祝いをしてくれそうだ。

＜日本たまご事情＞3/12「トレーサビリティ（生産履歴を追跡する仕組み）２」

原田先輩こんにちは
たまご屋の私は１０３歳の近藤先生の大好物が「たまごとじうどん」と聞いて嬉しくなりました。
たまごを食べて長生きしましょう！又送ります。
齋藤　富士雄

トレーサビリティ（生産履歴を追跡する仕組み）（２）

　鶏卵農場及びＧＰセンター（鶏卵の洗卵選別する場所）には各種データが蓄

積されている。

　ではこの生産履歴をどのように消費者に伝えるかですが、一昔まえなら恐らく途方にくれたに違いない。

いちいちタマゴパックの中にパンフレットを入れる訳にもいかず、入れたとしても多くは読んでもらえまい。

　恐らくタマゴの生産履歴に興味をもちその安全性を確認したい人の数は多くないにしても熱心な人に違いなく、簡単な説明では満足しないであろう。このような場合にうってつけなのはホームページ（ＨＰ）です、次の世代の人たちにとってインターネットによる情報収集は必須であろうしあたりまえの世界であろう。

　スーパーマーケットあるいは生協で買ったタマゴパックに印刷されているＨＰアドレスで農場にアクセスし必要な情報をとることができる。

　農場のＨＰにはかなり初歩的なものから専門的なものまで情報を用意しておく、さらに詳しくは電話、Ｅ−ｍａｉｌなどで直接対話できるようにしておく。

　「たかがタマゴ、されどタマゴ、必要な情報つきのタマゴ」、消費者の食品に対する不安を取り除くには各人がまづ一歩踏み出すことが肝要と考えます。

齋藤　富士雄
（株）愛鶏園
http://www.ikn.co.jp/

●3/13 コメント：斎藤さん。・・・

斎藤さん。
　HP を有効に使う案は賛成です。農文協図書館も「農業のことは何でもわかる」をキャチフレーズにしています。最近見た岩波書店の HP も参考になりました。畜産物の偽表示にはモラルの低下が生協・農協にも及んだかとがっかりしています。

＜農業・図書情報＞農文協図書館・野口弥吉博士の訃報

　農文協図書館に野口文庫として寄贈されている野口弥吉博士が１０２歳で２月２３日に逝去されました。
　ここに謹んでお悔やみ申し上げ、御冥福をお祈り致します。御遺族の希望で新聞公表を控えられ、３月１日告別式を終えられたと通知がありました。

　故野口博士は、１８９９年9月１４日東京生まれ。１９６０年東大農学部を退官された名誉教授。農学部では作物育種の基礎的研究に多大な業績を残されまた多くの学者を養成されました。くわしくは農文協図書館ホームページの野口弥吉文庫を参照下さい。
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/083noguchibunko.html

＜農業・図書情報＞青木雅子著「麦さん」けやき書房刊　定価１４００円
****いい麦作って、麦王といわれた権田愛三（童話）****

　権田愛三（ごんだ　あいぞう）は、１８５０（嘉永３）年、熊谷市の東別府に生まれた。愛三が若いころ、村のこどもたちは、食べるものが足りなくて、いつも腹をすかせていた。子どもたちに腹いっぱい食べさせたいと思った愛三は、ほったらかしで作られている麦に目をつけた。

　愛三は、村人たちと協力して、麦ふみ、二毛作、土入れ、土作り、広幅うすまきなど、麦作りに工夫と改良を重ねて、おどろくほどの多収穫に成功。その優れた麦作りを、近隣から日本中に教え広めた。麦は売れる商品となり、日本全国各地に、みごとな麦畑が広がるようになった。

　著者の青木雅子さんは、農文協図書館の永年の利用者で、この本の参考になる図書を閲覧されたのは５年も前からだった。そのときから資料を集め、小学校中学年に読みやすい児童書として完成。挿し絵もなかなか良い。『紅赤ものがたり』『みどりのしずくを求めて』とともに農作物３部作となった。

いま、小学校で総合学習がはじまっているが、この本は埼玉県をふくむ関東地方の農業・農民の歴史、とくに当時の農民の苦労をよくあらわし、それをいかに克服したかの教材になると思って推薦する。

「麦さん」
http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=02009172
『紅赤ものがたり』
http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=90029429
『みどりのしずくを求めて』
http://www.trc.co.jp/trc/book/book.idc?JLA=94024727

＜想い出の人々＞３、古島敏雄先生の最期は無念だった

映画『農耕の歴史』の監修をお願いして　（ 原　田　勉）

古島先生に初めてお目にかかったのは、１９４７年２月１日、東京農林専門学校駒場社会科学研究会の講演会のときであった。

当時占領下にあって全官公庁労働組合共闘委員会は２、１ゼネストに突入を宣言していたが、１月３１日にＧＨＱのマッカーサーによって中止を命令された。当日の予定では「農業恐慌」がテーマであったが、主題はそっちのけで、当面する日本の政治経済状況について、悲憤慷慨されることになってしまった。

社研は山崎不二夫先生が戦後まもなく創設され、大谷省三先生が着任されると、お二人のご指導で読書会や講演会が活発におこなわれ、その講師として古島敏雄先生が見えたのである。

当時先生は、長野などの農村にもよく足をはこばれて、農村民主化の運動を励ましておられた。後に農文協に入った私は、すでにそこでも近藤康男先生とともに古島先生が理事になって農村文化運動に助言しておられることを知った。

私が直接、ご指導頂いたのは、１９６８年東大紛争の最中であった。農文協で映画「農機具の歴史」を作るため先生の『日本農業技術史』をテキストにしてシナリオを書いた。そのねらいは、農耕の起源から昭和２０年代までに、農機具は誰の手によって、どのように改良・普及してきたか。それに寄与した多くの農民の苦労と創造的エネルギーをたずね、これに協力した野鍛冶との交流を紹介し、今後の農業機械発達の意欲を促すものにしたい。とのねらいだった。

監修をお願いし、先生に助言をもとめて面会を申し込んでいたが、百合子奥

様のご返事は「朝早くから夜おそくまで会議で多忙」とのことだった。東大紛争の農学部責任者の立場におられたためということは後で知った。その忙しいなかを１０月１０日時間を割いて農文協大手町分室においでになり、それまでの撮影ラッシュとシナリオを見ていただいた。

「技術史をよくここまで勉強して、脚本は良くできている。この線でいいが、犂の発達は今記録しておかないと無くなってしまうし、ぜひ重点をおきたい。これは、トラクターになっても活かせる技術だ」

　と、褒められた。先生は学問的な点では厳しいと思っていたので内心ほっとした。『農耕の歴史』として完成した後も、ウイン大学日本文化研究所の教授をともなって試写してくれと見えられ、「これが日本文化だ」と紹介された。ウイン大学でもぜひ欲しいと言うことで、農文協から寄贈され、今でもウイン大学にあるはずである。

　もう一つの思い出は古島夫妻と沖縄で行われた「農書を読む会」に同行したことである。その前の年、先生の次男暢雄君（農文協勤務）が結婚したこともあり、百合子夫人とも親しく話合いができた。研究会のあと、沖縄の戦跡めぐりを共にし、読谷村の集団自決した洞窟（チビチリガマ）でお祈りしたことは今でも忘れることができない。

　最期に、９５年９月、無惨にも夫妻が亡くなった火災の跡片付けをお手伝いしたとき目にしたのは、二階が焼け落ち、鉄骨の梁が飴細工のようにねじ曲がった姿だった。この上に膨大な古文書など先生の分身ともいえる資料類が保存されていただろうに、それが猛火とともに消え失せた無念さを思い、涙にむせんだ。

（『わたしたちに刻まれた歴史−追想の古島敏雄・百合子先生』１９９６年
新制作社刊から再禄＜農文協図書館　理事＞）

『農耕の歴史』はビデオになって農文協から発売。VHS 33 分 15750 円
農文協図書館で視聴できます。

＜私の近況報告＞３月８ー３月２０日櫻の花が咲き始める季節になった

３月８日、近藤康男先生の（岡崎の歴史・その１）「平重衡（たいらの　しげのり）の歩いた途」ワープロ印刷完成。古今和歌集にある「からころも着つつなれにし」と「かきつばた」の歌を詠じた重衡の八つ橋は西三河の町であると八高の国語の講義で聞いて嬉しくなり、地図で探したがわからない。それは確か矢作川の「渡り」を通って歩いたに違いないと、その道を推察してゆく。

３月９日、松坂正次郎先輩夫妻の案内で、喜寿の祝い大正ロマンのある宿に招待された翌日、千葉県船橋市のアンデルセン公園を見学する。
　アンデルセン像や童話館もさることながらデンマークの１８００年代の藁ぶき農家を再現して、当時のベットや長ベンチ、戸棚、農具など生活部屋や馬小屋などあった。それに風車職人が手がけたデンマーク式粉ひき風車は、羽の長さ１１メートルが４枚回るようになっていて壮観だった。まるで北欧に行ったような錯覚をおぼえた。

３月１３日、近藤先生の（岡崎の歴史・その２）の原稿「額田、碧海の地域代表者の労働者待遇についての問答歌」をあずかる。来週までにワープロ作業の宿題。先生はそれを推敲してまた校閲される予定。

３月１５日、町田市立自由民権資料館の学芸員来訪。来年度、「浪江虔の業績展」（仮称）を計画中である。それについて農文協図書館に浪江さんのどんな資料があるか、調査に見えた。私立南多摩農村図書館から寄贈された図書を中心に浪江さんの人物像の聞き取りに応え、浪江文庫の閲覧をして貰う。
町田市立自由民権資料館
http://www.city.machida.tokyo.jp/shisetsu/cul/cul_2.html#3
浪江虔文庫
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/079namiebunko.html

３月２１日、『電子耕』７９号の発行日だが、小生の喜寿を祝って２泊３日の家族旅行で留守になります。
http://www.kampo.kfj.go.jp/sisetsu/yado/2152/index.html
メールは２３日夜に拝見する予定です。

＊先着数名の方に『現代農業』３月号
http://www.ruralnet.or.jp/gn/200203/200203_f.htm
を贈呈します。

ご希望の方は『電子耕』の感想・郵便番号・住所・氏名・「『現代農業』３月号希望」を明記して
mailto:tom@nazuna.com
までメールください。〆切 3/31（無くなりしだい〆切）

＜農業・図書情報＞東京国際ブックフェア 2002 招待券プレゼント

○東京国際ブックフェア 2002 開催
http://web.reedexpo.co.jp/tibf/
４月 18 日(木)ー21 日(日)、
東京ビッグサイト
http://www.bigsight.or.jp/
を会場に東京国際ブックフェア 2002 が開催されます。
農文協では、毎年展示物に工夫をこらして自然科学書フェアに出展します。

20 日（土）・21 日（日）の一般公開日には、文芸書、実用書、学術書、学習書から児童書、コミックまで、あらゆるジャンルの本の「割引セール」を実施。「買いたかった本」「探していた本」が会期中限定の特別割引価格で購入できます！

入場料 1200 円のところを無料招待券プレゼントします。

希望枚数（１枚でひとり入場できます。）郵便番号・住所・氏名を
mailto:tom@nazuna.com
までメールください。〆切 3/31

出版ダイジェスト「農文協図書館２０周年記念特集号」を無料でさしあげます。
詳しくはこちらをご覧ください。
http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/sp/200202/news2.html

ーＰＲ

■■■■　劇団文化座創立６０周年記念第３弾　第１１５回公演
■■■□　-1960 年代の青春がいま甦る！話題作必見の凱旋公演-
■■□□　『　青春デンデケデケデケ　』
■□□□　原作／芦原すなお・脚本／小松幹生・演出／佐々木雄二

□□□□　　公演日程　２００２年８月 28 日（水）ー９月８日（日）
□□□□　　会場　下北沢・本多劇場
http://bunkaza.com/
―――――――――――――――――――――――――――――――――――――ＰＲ―――
『電子耕』から大切なお知らせ
http://nazuna.com/tom/10.html
＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
　　隔週刊「77 歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」　　第 79 号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内
http://nazuna.com/tom/denshico.html
2002.3.21（木）発行　　西東京市・ひばりが丘　　原田　勉
mailto:tom@nazuna.com
発行部数 1779 部　**********ここまで『電子耕』*******